



1318

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

驅逐艦

同 同 同 同 同 同 同 同

有 時 夕 吹 疾 追 初 卯 驅
明 風 雨 風 風 生 春

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル
達第百三十七號

艦艇類別等級表中左ノ通改正ス

大正十三年十二月一日

海軍大臣	財部
百三十一	彪
海軍	軍

軍艦ノ欄内「水雷母艦」ヲ「潜水母艦」ニ改ム
驅逐艦三等ノ欄内「有明、吹雪、潮、初霜、神風、瀧生、子日、如月、朝風、夕暮、若葉
春風、追風、初雪、時雨、夕立、雲、初春、疾風、夕風、卯月、水無月、長月、菊月
浦波、破波、轟波」ヲ削ル

掃海艇ノ欄内「第六號」ノ次ニ「夕立、夕暮、神風、初霜、如月、雲、浦波、破波
水無月、長月、菊月、轟波、潮、子日、朝風、若葉、春風、初雪」ヲ加フ

水雷艇ノ欄ヲ削ル

備考第三號ヲ左ノ通改ス

掃海艇ヲ呼稱スルニハ「掃海艇何」ヲ以テス但シ番號ヲ附ヘルモノハ「第一號掃海艇」
「第二號掃海艇」等ト稱ス

備考第四號ヲ創リ第五號ヲ第四號トス

達五百三十八號

海軍潛水學校規則中左ノ通改正ス

大正十三年十二月一日

海軍大臣 財部

彰

第八條中「練習生ノ學業考課表」ノ上ニ「特務士官准士官學生ノ卒業成績表及」ヲ加フ
第九條ノ二 海軍潛水學校令第二十條ノ規定ニヨリ特修科學生タラムコトヲ志願スル者
ハ兵科及機關科終校ニ在リテハ海軍大臣ニ、兵科及機關科特務士官准士官ニ在リテハ
在籍鎮守府司令長官ニ各順序ヲ經テ願書ヲ差出スヘシ

第九條ノ三 兵科及機關科特務士官准士官ヲ特修科學生ニ採用スヘキ員數及時期ハ海軍
大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜シタル者及其ノ鎮守府在
籍兵科及機關科特務士官准士官ニシテ特ニ潛水艦ノ職員トシテ必要ナル事項ヲ修習セ
シムル必要アリト認メタル者ニ海軍潛水學校特修科學生ヲ命スヘシ

百三十一

海軍

第九條ノ四 校長ハ兵科及機關科特務士官准士官タル特修科學生ヲ卒業セシムルトキハ
各其ノ在籍鎮守府司令長官ニ通報スヘシ

第十二條 海軍潛水學校練習生ハ水雷術、電信術、機關術、電機術若ハ工術特修兵タル
者ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 品行方正實務ノ成績優等ニシテ潛水艦乗員ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認
ムル者

二 海軍潛水學校練習生ヲ卒業ノ日ヨリ起算シ滿一年六箇月以上現役年期ヲ有スル者
又ハ現役年期滿一年六箇月以上ヲ有セナルモ現役滿期ノ際再服役ヲ志願スルコトヲ
豫メ誓約スルモノ者

第十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦船部隊其ノ他各部（當該鎮守府在籍下士官兵ノ勤務スヘ
キモノニ在リテハ其ノ所屬如何ナ開ハス以
下缺之）ノ長ヲシテ練習生ニ適スト認ムル者ニ就キ身體検査ヲ行ヒ第十二條ニ該當スル
者ヲ選拔シ所見表（別表）ヲ附シ選出期限内ニ鎮守府司令長官ニ報告セシムヘシ

第二十四條 海軍潛水學校學生及練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス

- 一 甲種學生 三箇月以内
- 二 乙種學生 四箇月以内
- 三 機關學生 四箇月以内
- 四 特修科學生 六箇月以内
- 五 專攻科學生 一箇年以内
- 六 練習生 六箇月以内

別表中學力ノ欄ノ記事ヲ「入籍前ニ於ケル學校ノ修業程度ヲ記入ベ」ニ改ム

海軍潛水學校學生及練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス

達第百三十九號

海軍無線電報取扱規約中左ノ通改正ス

大正十三年十二月一日

海軍大臣財部 彰

附表第一海軍艦（船）名及海軍無線電信所名略符號ノ欄一等驅逐艦、部中第一十七驅逐艦ノ次ニ「T Q Y A 第二十八號驅逐艦」「T Q N A 第二十九號驅逐艦」「T M A 第三十號驅逐艦」「T H A 第三十一號驅逐艦」ヲ加ヘ同略符號ノ欄中「第一、、驅逐艦」等ヲ「第一、、號驅逐艦」等ニ「第一、、海軍艦」等ヲ「第一、、號海艇」等ニ改ム

（舊例卷二、五四二、一〇頁參照）

海軍
百三十九

1321

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

(第一號書式)

大正

年

月

所
日
給
金
屬
借
用
圓
職
人
錢
名

所
保
屬
證
人
職
名
氏
名

氏
氏

名
名

收入印紙
記載金額
壹萬分ノ五

處長借用證書
金圓何箇月月賦

備考
右金額海軍共濟組合貸付部規則ニ依リ正ニ借用候也

一、海軍共濟組合貸付部規則ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ本證書相當欄ニ必要事項ヲ記入シ保證人ノミ捺印ヲ了シ災厄具申書ト共ニ所轄廳長ニ提出スルモノトス

二、借用者現金ノ交付ヲ受クル捺印紙ヲ點用シ必要ノ箇所ニ捺印スルモノトス

(第二號書式)

大正

年
月

日

災厄具申書

現住所

所屬職名
日給金圓錢

氏
名

備考
右ノ事實取調候處相遠無之此發證明候也
大正 年 月 日
所屬 何 何
某 某
○ ○

本具申書ハ二人以上ノ證明者ヲ必要トス
但シ警察官吏ノ證明ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(第三號書式)

現 金 出 納 簿

月 日	摘 要	受				拂				残 額
		資 金	返 滯 元 金	利 子	計	貸 付	常 時 保 管 金 へ 保 替	經 本 へ 送 金	計	
		円	円	円	円	円	円	円	円	円

1323

(第四號書式)

現 金 内 譯 簿

月 日	摘 要	預 金	保 管 現 金	貸 付 金	計
		円	円	円	円

1324

(第五號書式)

(第六號書式)

月 分 受 拂 現 計 背

海軍共濟組合、……貸付部會計主任

摘要	受	拂	差	記事
	内	内	内	内
常時政本部より金子返納受領	内	内	内	内
常船貸元利金付	内	内	内	内
常時政本部へ金送替組替金額	内	内	内	内

備 着 前月末日調査完済貸付金額

本月中貸付金總額

本月中返納元金者

本月來日請未完濟貸付金總額

廣雅

卷之三

1325

正誤
本年達第百三十五號中百三十頁十二行「遺感。」ハ「遺憾。」ノ誤
大正十三年十二月 日 海軍省副官

達第四十號

海軍共濟組合貸付部規則左ノ通定ム

大正十三年十二月一日

海軍大臣財部 謹

第一章 総則

第一條 本貸付部ハ海軍共濟組合規則第三十八條ニ基キ之ヲ設置ス

第二條 本貸付部ハ組合員ヲ不慮ノ災厄ニ因リ生計困難ニ陥リタル場合ニ於テ低利資金ヲ貸付クルヲ目的トス

第三條 本貸付部ハ組合員所屬廳（新嘉坡港務部、軍需部及平壤鐵業部ヘ該ニ准ス）毎ニ之ヲ置キ海軍共濟組合（廳名）貸付部ト稱ス

第四條 各廳長ハ當該貸付部ヲ管理ス

第五條 各廳長ハ當該廳勤務者ヲシテ貸付部ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第二章 貸付及辨済

百三十五

海

軍

第六條 本則ニ依ル資金ノ貸付ハ組合加入後一年以上ヲ経過シタル者左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ限リ之ヲ爲スニトヲ得

一 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ

二 父母、配偶者、直系卑屬又ハ同居ノ家族傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ

三 其ノ他不慮ノ災厄ニ因リ甚シキ生計困難ニ陥リタルトキ

第七條 貸付金額ハ當該組合員ノ掛金總額ノ半額又ハ其ノ受クヘキ勤總救濟金ノ半額ヲ限度トス

前項ノ限度ニ達スル迄ハ同一人ニ對シ數回ニ分チ貸付ヲ爲スニトヲ得

第八條 貸付金ノ利息ハ元金一圓ニ付月五厘ノ割トシ曆月ヲ以テ計算ス

月ノ中途ニ於テ貸付ケ又ハ返納シタル金額ニ對シテハ其ノ月分ノ利息ヲ徵收スルモノ

トス

利息計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢ニ切上ク

第九條 貸付金ハ貸付ノ翌月ヨリ十二箇月以内ニ月賦辨済ヲ爲サシム但シ特別ノ事情ア
ルヲキヘ辨済期限ヲ更ニ五箇月以内延長スルコトヲ得

第十條 辨済スヘキ月賦額及當該月分ノ利息（最初ノ辨済期ニ限リ）ハ毎月支給スヘキ給料
(賃錢及加給ヲ含ム以下之ニ同シ)ヨリ控除スルモノトス

給料ノ支給ヲ受ケナルトキ又ハ給料ノ支給ヲ受クルニ前項ノ額ニ達セナルトキハ當該
月ノ辨済元利金ヲ額次翌月以後ニ於テ順延控除スルコトヲ得

第十一條 信用者ハ定期貸與加給、勤続加給等ヲ以テ辨済金ニ充當シ辨済ノ時期ヲ繰上
クルコトヲ得

第十二條 信用者組合ヲ脱退シタルトキハ其ノ際直ニ貸付元利金ヲ完済セシム

未辨済ノ貸付金(利息共)ハ本人又ハ其ノ遺族カ共済組合ヨリ受領スヘキ救済金ヨリ之
ヲ控除スルモノトス

第十三條 借用者前條ニ依リ貸付元利金ヲ完済スルコト能ハナルトキハ爾後保證人ヲシ
ヲ第十條乃至第十二條ノ規定ニ準シ之ヲ辨済セシムルモノトス

百三十六 海軍

第十四條 未辨済ノ貸付金ヲ共済組合救済金ヨリ控除スルトキハ該金額ハ之ヲ救済金ノ
前受金ト看做ス

第十五條 資金ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ二人以上ノ連帯保證人ヲ立ツヘシ

前項ノ保證人ハ本人ト同一處ニ勤務スル者ニシテ本則ニ依ル資金ノ貸付ヲ受ケナルモ
ノニ限ル

貸付金借用者ノ保證人ト爲ルヘキ者ハ同時ニ二人以上ノ貸付金借用者ノ保證人タルコ
トヲ得ス

第十六條 組合員資金ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ借用證書(第一號書式)(捺印ノモノ)ニ
災厄ニ關スル具申書(第二號書式)ヲ添へ順序ヲ經テ廳長ニ請求スヘシ

第十七條 各廳長ハ借用證書及災厄具申書ニ基キ審査ノ上貸付ノ必要アリト認ヌタルト
キハ會計主任ヲシテ現金ヲ貸付セシム

第十八條 借用證書ニハ現金交付ノ際本人ヲシテ印紙ヲ貼附セシメ且必要ノ箇所ニ捺印
セシムルモノトス

第十九條 借用證書ハ貸付金完済ノトキ本入ニ之ヲ返還スルモノトス

第三章 会計、報告

第二十條 貸付部ノ会計ハ共済組合ヨリ分離シ各貸付部毎ニ特別会計ト爲シ其ノ年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第二十一條 各廳長ハ部下高等官ニヨリ會計主任ヲ指定シ貸付部ノ會計事務ヲ掌理セシムヘシ

第二十二條 貸付ニ要スル資金ハ各廳長ノ要求ニ應シ鑑政本部長保管金中ヨリ之ヲ支出ス但シ各廳長ハ其ノ常時保管スル金額中ヨリ必要ノ金額ヲ貸付資金ニ組替ヘ支出スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ組替タル金額ヲ鑑政本部長ニ通知スヘシ

第二十三條 貸付金ノ利息收入ハ一箇年分ヲ取扱ヌ年度經過後一箇月以内ニ鑑政本部長ニ納付スヘシ

第二十四條 各廳長ハ左ノ帳簿及原票ヲ備ヘ資金貸付ノ整理ヲ明ニスヘシ

一 現金出納簿（第三號書式）

百三十七	海軍
------	----

二 現金内訳簿（第四號書式）

三 貸付原票（第五號書式）

各廳長ハ前項ノ外必要ニ應シ適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 借用者其ノ所屬ヲ轉シタルトキハ舊所轄廳長ハ貸付原票、借用證書及災厄具申書ヲ新所轄廳長ニ轉送シ未辦済ノ貸付金ハ爾後新所轄廳ノ貸付金トシヲ整理ス

ヘシ

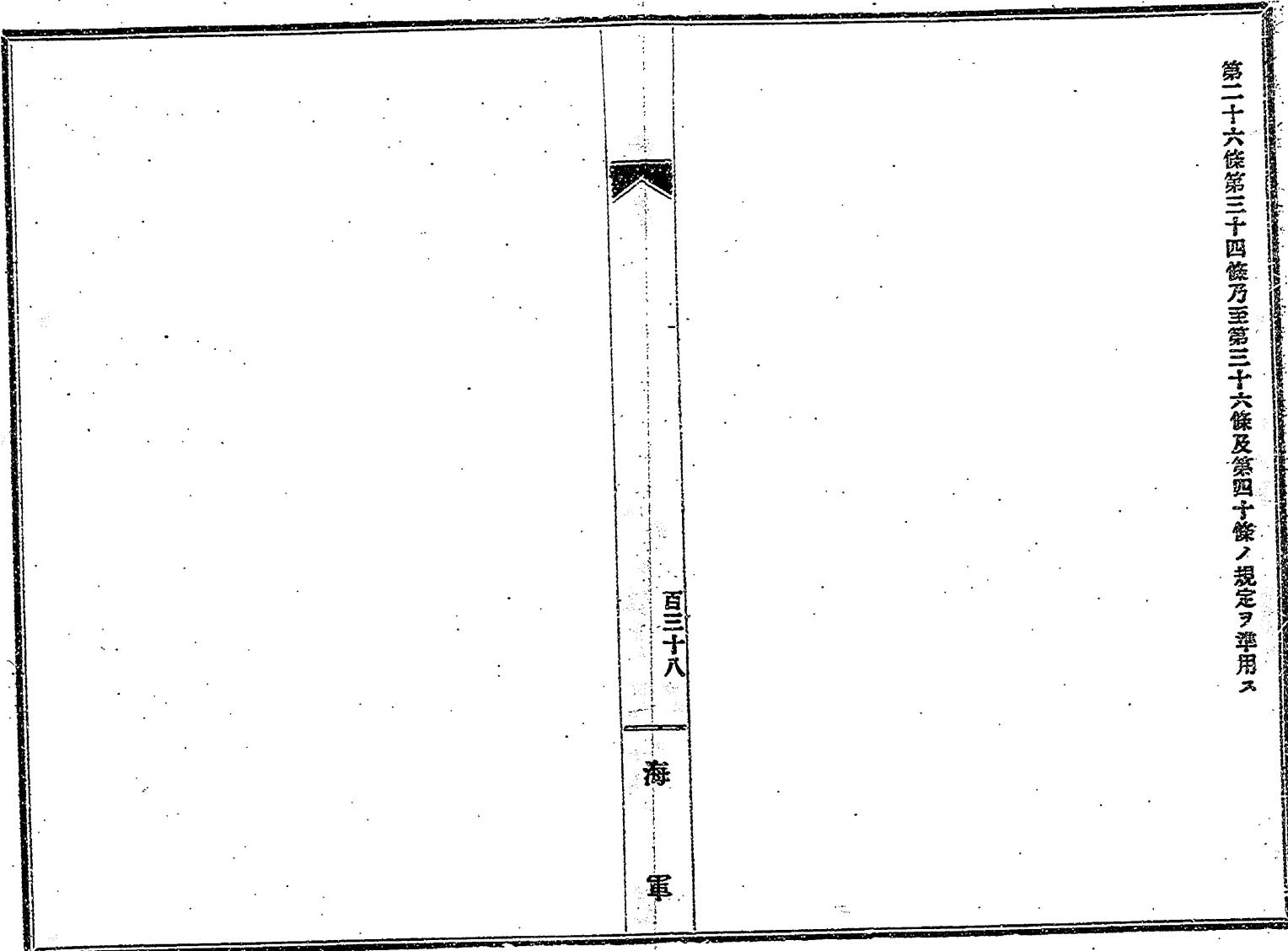
第二十六條 各廳長又ハ會計主任交替ノ際ハ事務引継ノ日ヲ以テ現金出納簿及現金内訳簿ヲ締切リ現在高ト帳簿トヲ對照シテ事務ヲ引継クヘシ

第二十七條 會計主任ハ毎月末日及廳長又ハ會計主任交替ノ際受拂現計書（第六號書式）ヲ調製シ所轄經理部ヲ經テ經政本部ニ提出スヘシ

第二十八條 各廳長ハ會計主任ヲシテ年度經過後一箇月以内ニ當該年度ニ於ケル收支決算報告ヲ調製セシメ所管鎮守府ヲ經テ大臣ニ提出スヘシ

第二十九條 本則ニ定ムルモノノ外貸付部ノ會計ニ關シテハ海軍共済組合規則施行細則

第二十六條第三十四條乃至第三十六條及第四十條ノ規定ヲ準用ス



1329

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百四十一號

海軍共濟組合病院規則中左ノ通改正ス

大正十三年十二月十一日 海軍大臣財部 彰

第十四條ノ一 病院管理官ハ組合關係各處ノ組合員中ヨリ二十五名以内ノ諮詢委員ヲ選出セシメ病院長ノ諮詢ニ應セシムルコトヲ得但シ部下以外ノ組合員中ヨリ諮詢委員ヲ選出セシメントスルトキハ關係處長ニ之ヲ選出方ヲ依頼スヘシ

達第百四十二號

海軍共濟組合購買所規則中左ノ通改正ス

大正十三年十二月十一日 海軍大臣財部 彰

第十一條ノ一 購買所管理官ハ組合關係各處ノ組合員中ヨリ二十五名以内ノ諮詢委員ヲ選出セシメ購買所長ノ諮詢ニ應セシムルコトヲ得但シ部下以外ノ組合員中ヨリ諮詢委員ヲ選出セシメントスルトキハ關係處長ニ之ヲ選出方ヲ依頼スヘシ

昭和五年十二月二日
ニテ本文ノ改定

改正

1331

達第百四十三號

水素瓦斯容器試験検査及取扱規程左ノ通定ム

大正十三年十二月十二日 海軍大臣 財部 彦

水素瓦斯容器試験検査及取扱規程

第一章 総則

第一條 本規程ハ海軍ニ於ケル航空船、氣球用浮揚水素瓦斯容器ノ試験、検査及取扱ニ關スル事項ヲ規程ス

第二條 水素瓦斯容器ノ試験検査ヲ分チテ左ノ三種トス

一 領收検査

二 定期水壓試験

三 臨時水壓試験

第三條 領收検査ハ新ニ製作又ハ購買シタル容器納庫ノ際第二章試験検査規格ニ依リ之

百四十

海軍

ヲ行フ

第四條 定期水壓試験ハ毎三個年ニ一回第三章水壓試験規格ニ依リ之ヲ行フ

第五條 臨時水壓試験ハ左ノ場合臨時ニ第三章水壓試験規格ニ依リ之ヲ行フ

- 一 容器ノ外部ニ損傷アルヲ發見シタルトキ
- 二 容器ノ衰弱ヲ認ヌタルトキ

第六條 水素瓦斯容器定期水壓試験ノ時期ニ達シタルトキ又ハ臨時水壓試験ノ必要ヲ認メタルトキ所轄長ハ最寄海軍軍需部長ニ之カ検査ヲ請求ヘシ

第七條 新造容器納庫ノ際又ハ在庫中ノ容器ニシテ定期若ハ臨時水壓試験ノ必要ヲ認メタルトキ海軍軍需部長ハ本規程ニ準據シ水壓試験ヲ行フモノトス但シ領收検査中容器材料ノ試験検査ニ關シテハ在籍鎮守府ノ海軍工廠長ニ之ヲ委託スルモノトス

第八條 水素瓦斯容器ノ取扱ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外本規程第四章取扱法ニ依リ之ヲ處理スルモノトス

第二章 試験検査規格

第九條 水素瓦斯容器ハ左ノ各號ニ該當スルモノナルヲ要ス

一 容器ハ鐵鐵又ハ銅製ニシテ繩田ナキコト

二 容器ハ各部正圓ニシテ圓管部ハ全部同一徑ヲ有シ環狀ハ勿論有害ナル缺損部ナキコト又仕上後完全ナル焼鏡ヲ施シタルモノタルコト

三 容器ハ凡テ開閉弁及至上保護用トシテ銅鐵又ハ軟鋼製螺帽ヲ具ヘ螺子ハ凡テ右螺子タルコト

四 容器ノ容量ハ清水ヲ以テ之ヲ計測シ四一「管」正負一「律」トシ重量ハ六〇匁ヲ最大限度トスルコト

五 容器ノ最大使用壓力ハ攝氏三十五度ニ於テ一五五・²五(一五〇氣壓)トス

第十條 水素瓦斯容器ハ左ノ各種試験規格ニ合格スルヲ要ス

一 第十二條及第十三條ニ依ル水壓試験規格

二 容器ハ同種ノモノ五十個又ハ其ノ端數ヲ一組トシ各組ヨリ任意一個ヲ抽出シテ切斷試験ヲ行ヒ中心軸ニ沿フテ經斷シ厚サラ検査シ更ニ縦横ニ各一個宛ノ試験片ヲ採

百四十一

海軍

リ牽引、屈曲、及衝擊試験ニ供スルモノトス但シ縱方向ノ試験片ハ冷質ノ儘機械ニ

テ切ツ取り後矯正セシテ仕上ケ横方向ノ試験片ハ冷質ノ盡機械ニテ切ツ取り赤熱矯正後燒鏡ノ上仕上クルコト

三 牽引試験規格左ノ如シ

緊張力一平方呎ニ付(四四・〇九七磅以上)^{六四・〇〇七磅以下}(一平方吋ニ付)^{二十八磅以上}

延伸度

一五%以上

標點間

一〇一・六呎ニ付(四吋)

四 屈曲試験規格左ノ如シ

冷質屈曲百八十度ニテ屈曲部外面ニ裂痕ヲ生セサルコト但シ屈曲部内面ノ半徑ハ厚ナノ二倍以下トス

五 衝擊試験規格左ノ如シ

容器ハ高サ五米ノ位置ヨリ鐵板上ニ落下シ龜裂ヲ生セサルコト

六 容器ノ側壁ハ第十條第二號ノ切斷試験ニ於テ同一周上其ノ厚サ5—200以上ノ不

同ナキモノニシ又側壁ニ對スル内壓力ニ因リ生スル擴張力カ左ノ規格ヲ超過セんサ
厚サタンコト

左記 規格

- (一) 使用壓力ニ於テハ切斷面積一平方糺ニ付一二・五九九庭(一平方吋ニ付八頃)
(二) 試驗壓力ニ於テハ切斷面積一平方糺ニ付二三・六二四庭(一平方吋ニ付十
五頃)

七 材料ノ規格左ノ如シ

鐵	九八・〇%以上
炭素	〇・四%以下
硫黃	〇・〇四%以下

第十一條 前條ノ規定ニ依リ 各組ヨリ任意一個ヲ 抽出シタル容器ニシテ全條第三、四、

五、六、七號ニ規定シタル牽引、屈曲、衝擊、切斷及材料ノ各試驗規格ニ合格シタルト
部ヲ不合格トス

百四十一

海軍

第三章 水壓試驗規格

キハ其ノ各組ノ殘餘ニ對スル試驗ヲ省略スルコトヲ得若シ不合格ナルトキハ其ノ組全
キハ其ノ各組ノ殘餘ニ對スル試驗ヲ省略スルコトヲ得若シ不合格ナルトキハ其ノ組全
部ヲ不合格トス

ク又水漏出ノ兆候ナキヲ要ス

第十三條 容器ノ安全倉ハ容器ノ水壓試驗壓力ノ $\frac{8}{10}$ ニ調整スルコト又瓦斯填充口ノ

螺子ハ左螺子ナルヲ要ス

第十四條 定期又ハ臨時水壓試驗ニ於テ全一來歴ヲ有スル多數ノ容器ヲ全時ニ試驗ヘル
場合ニハ前條ノ水壓試驗ハ其ノ容器全數ノ $\frac{50}{100}$ ヲ任意抽出シテ之ヲ行ヒ總ヲ合格シ
タルトキハ殘餘ノモノニ對スル試驗ヲ省略スルコトヲ得若シ此ノ抽出容器中ニ不合格
品アルトキハ試驗容器總數ニ對シ試驗ヲ行フヘシ但シ容器ノ來歴不明瞭ノモノニ對シ
テハ其ノ全部ニツキ試驗ヲ行フモノトス

第十五條 水素瓦斯容器ノ領收検査ヲ行フ場合ニハ其ノ水壓試験ハ容器全部ニ對シ之ヲ行フモノトス

第十六條 検査官ハ水壓試験ニ合格シタル容器ニ對シ其ノ耐力ノ障害ト爲ラナル位置ニ製造所名、製造番號、内容積(律)、水壓試験施行場所、全上施行年月日及水壓試験壓力ヲ刻印スヘシ

第四章 取扱法

第十七條 水素瓦斯ヲ容器ニ充填スルニハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 水素瓦斯ヲ充填スルニハ豫メ容器内外部ヲ検査シ塵埃、鐵片其ノ他ノ異物介在ナカラシムドコド

二 水素瓦斯充填ノ初期ニ當リ容器壓力五乃至一〇キロニ達シタルトキハ容器内ヲ洗滌シ且空氣ヲ放出シ目的ヲ以テ一旦瓦斯ヲ大氣中ニ放出セシメ容器内ニ僅ニ壓力ノ殘存セルトキ再ヒ充填作業ヲ開始スルコト

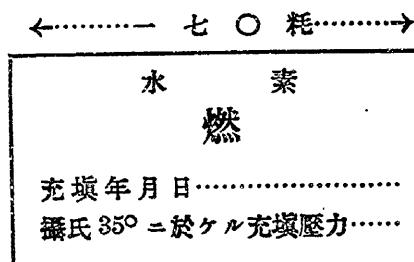
三 水素瓦斯ヲ充填シタル容器ニハ外面見易キ箇所ニ「水素」「燃」ノ文字及充填年月日並攝氏三十五度ニ於ケル充填壓力ヲ明記シタル朱色紙(附圖参照)ヲ貼附スルコト

百四十三

海軍

(附圖)

↑…一五〇耗…↓



四 水素瓦斯ヲ充填シタル容器ヲ包装シタルトキハ其ノ外部見易キ所ニ前號ノ朱色紙ヲ貼附スルコト

第十八條 水素瓦斯ヲ充填セバ容器ノ貯藏運搬ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 日光ノ直射其ノ他熱源ノ直接影響ヲ避ケシムルコト

二 氣溫攝氏三十五度以上ノ場所ニ貯藏セナルコト

三 容器等ニハ常ニ保護筒ヲ裝着セシムルコト

四 容器ハ五層以上ニ堆積スヘカラス二個以上ヲ積ミ重ヌル場合ニ在リテハ轉落等ノ虞ナカラシムルコト

五 汽車又ハ船艤ニ依リ容器ヲ輸送スル場合ニハ木枠ヲ以テ包装シ進行方向ト直角ニ横置シ下積ミセナルコト

六 容器内ニ温氣ヲ滯留セシムルトキハ内部ノ腐蝕ヲ増進セシムルヲ以テ常ニ之カ排除ニ付願到ノ注意ヲ爲スニト

七 水素瓦斯容器ハ三百個以上ヲ堆積セナルコト

百四十四

海軍

八 水素瓦斯容器ノ運搬格納ニ當リテハ電氣的ニ可成完全ニ地絡セシムルコト

九 堆積セラレタル集圓容器ノ相互間隔ハ五〇米ヲ以テ規定トスルコト

十 水素瓦斯ヲ充填シタル容器ハ別箇ニ建設セラレタル容器格納庫ニ之ヲ貯藏スルヲ例トス

第十九條 本規程施行ノ際現供用中ノ水素瓦斯容器ニ限リ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理ス

一 現供用中ノ容器ニシテ本規程ニ依ル試験検査未済ノモノニ對シテハ時期ヲ見テ速ニ試験ヲ施行スルコト

二 安全算ノ具ヘナキ容器ハ直ニ修理ヲ行フコト

三 現供用中ノ容器ニシテ本規程ヲ適用スルコト能ハサルモノニ付テハ出來得ル限り之ニ凍瘻スルコト

附則

本達ハ大正十三年十二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

達第百四十四號

海軍病院ニ於テハ必要ニ應シ患者慰安用及體育用物品ヲ備附クニヨドラ奉

大正十三年十二月十八日

海軍大臣財部 彰

達第百四十五號

海軍省處務規程中左ノ通改正バ

大正十三年十一月二十日

海軍大臣

財

部

部

部

1337

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第六條中「特務士官、准士官」ヲ削ル

第七條 船記官ハ大臣官房ニ在リテ文案案ノ審査ニ任ス

前項ノ外書記官ハ大臣及次官ノ諮詢ニ應シ且意見ヲ具申スルコトヲ得

第十一條 刪除

第十二條及第十四條中「特務士官、准士官、屬、編修書記」ヲ「屬」ニ改ム

第十五條第十二號ノ二ヲ削ル

第十六條第五號ノ次ニ左ノ四號ヲ加ヘ第六號ヲ第十號トシ以下順次繰下ク

六 演習ニ關スルコト

七 機關ノ使用ニ關スルコト

八 機關ノ實驗及統計ニ關スルコト

百四十六

海軍

九 機關及機關長主管ノ船體及兵器ノ調査ニ關スルニト

第十七條第五號及第六號中「機關科」ヲ削ル

第十九條第三號ノ次ニ左ノ六號ヲ加ヘ第四號ヲ第十號、第五號ヲ第十一號トス

四 戰時充員ニ關スルコト

五 海軍豫後備役軍人ニ關スルコト

六 海軍豫備員、海軍豫備生徒及海軍豫備練習生ニ關スルコト

七 召集及箇閱點呼ニ關スルコト

八 軍需工業勤員法ニ基ク人員ノ召集又ハ徵用ニ關スルコト

九 在鄉軍人會ニ關スルコト

第十九條ノ二ヲ削ム

第二十條第二號、第三號及第五號中「機關局第二課」ヲ削リ、第七號中「及機關局第二課」ヲ「第三課」ニ、第九號中「機關局第二課」ヲ「教育局第三課」ニ改ム
第二十一條第一號中「及通信術」ヲ「通信術及航空術」ニ、第三號中「前二號」ヲ「前

號」ニ改メ第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號、第四號ヲ第三號トス
第二十二條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改メ第三號ヲ第五號トス

一 機關術ノ教育ニ關スルコト

二 機關科海軍機關員ノ教育ニ關スルコト

三 海軍用語機關ニ關スルモノニ關スルコト

四 前諸號ニ係ル規程及命令並調査ニ關スルコト

第二十五條ヲ削リ第二十四條ノ二ヲ第二十五條トス

第二十五條ノ二ヲ削ア

第四十五條中「參事官」ヲ「書記官」ニ改ム

第四十七條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

閣議請議案等ニシテ法制局ト説明其ノ他事務上ノ交渉ヲ要スルモノニ付テハ其ノ任ニ當ルヘキ主務者ノ所屬及氏名ヲ大臣官房ニ通知シ大臣官房ニ於テハ之ヲ發送文書ニ附

鑑スヘシ

百四十七 海軍

別表ヲ左ノ如ク改ム
(別表)

		屬	技手
大臣官房		九	
人事局		七	
軍務局		六	
教育局		十	
軍需局		七	
醫務局		四	
經理局	十九	一	
建築局	五		
法務局	二	六	

達第百四十六號

海軍艦船部處務規程左ノ通定ム

大正十三年十二月二十日

海軍大臣 財部 彪

海軍艦船部處務規程

第一條 海軍艦船部ノ所掌事務ヲ細別スルコト左ノ如シ

- 一 艦船ノ改造、修理等ノ時機、程度、緩急等ニ關スルコト
- 二 艦船ノ現狀及來歴調査ニ關スルコト
- 三 艦船ノ保存手入及効力維持ニ關スルコト
- 四 艦内工業ノ指導ニ關スルコト
- 五 艦船ノ諸公試及諸試驗ニ關スルコト
- 六 艦艇使用實驗ニ關スルコト
- 七 艦船ノ臨戰準備ニ關スルコト

百四十八 海軍

八 微儲船組ノ整備ニ關スルコト

第二條 部長ハ部務整理ノ爲部内ノ服務内規ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得テ之ヲ行フニシテ得

第三條 部長ハ艦船ノ保存及整備ニ關シ艦船ニ就キ調査ヲ行ヒ又ハ當該艦船指揮官ニ對シ所要ノ通報ヲ求メ若ハ鎮守府司令長官ノ承認ヲ經テ必要ノ事項ヲ指示スルコトヲ得

第四條 艦船部職員ニシテ海軍艦船部令第六條ノ規定ニ依リ部長ノ職務ヲ代理シタルトキハ代理者ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ同様但書ノ場合亦同シ

達第百四十七號

鎮守府處務規程中左ノ通改正ス

大正十三年十二月二十日 海軍大臣 財部 彪

第九條 司令長官ハ出仕及附ニ適當ノ命課ヲ行フヘシ但シ其ノ配屬ハ隸下各部ニ限ル

第二十一條第三款ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ海軍艦船部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク

(該傳函卷一、一〇八頁參照)

達第百四十八號

艦船修造試験検査規則中左ノ通改正ハ

大正十三年十二月二十日 海軍大臣財部彪

第四十二條ノニ左ノ一項ヲ加フ

鎮守府所屬ノ艦船前二條ノ請求ヲ爲スベキハ所屬鎮守府ノ海軍艦船部長ヲ經由スヘシ
但シ所屬鎮守府ノ海軍工廠長以外ニ請求スル場合ニ於テハ通報ヲ以テ之ニ代フルコト
ヲ得

(該傳函卷一、五九一頁參照)

百四十九 海軍

1340

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

昭和二年三月
第十八号附則
乙未ノ年三月

廢止

達第百四十九號

大正十三年勅令第三百三號ニ依ル増給支給方左ノ規定ム

大正十三年十一月二十五日 海軍大臣財部 彰

第一條 大正十三年勅令第三百三號ニ依ル増給ハ左ニ掲タル騒乱地域及期間内ニ在リタル艦船乗員又ハ艦船ニ乗組ノ者ニ之ヲ支給ス其ノ艦船名及増給支給期間ハ別表ニ依ル
長江ヨリ下流ノ揚子江流域（上海ヲ含ム）

大正十三年九月九日ヨリ十一月二十五日迄

寧波、溫州

大正十三年九月二十四日ヨリ十月四日迄

秦皇島、山海關、天津

大正十三年十月十七日ヨリ十一月二十五日迄

第二條 増給ノ額ハ左ノ區分ニ依ル但シ第二號ニ當ルモノノ增給ハ日額五十錢ヲ超ム

百五十
海軍

コトヲ得ス

准士官以上 債給ノ十分ノ二

候補生及文官 債給ノ十分ノ三

下士官兵 債給ノ十分ノ三

三 屆員傭人 紙料ノ十分ノ三

第三條 增給ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 増給ヲ受クヘキ艦船ニ轉勤ノ者ニハ著任ノ日ヨリ、他ニ轉勤ノ者ニハ退艦ノ日迄

二 増給ヲ受クヘキ艦船ニ乗組ヲ命セランタル者ニハ乘艦ノ日ヨリ、免セラレタル者ニハ退艦ノ日迄

三 死亡又ハ解雇解僕ノ者ニハ其ノ日迄

第四條 増給ヲ受クヘキ艦船乗員又ハ艦船ニ乗組ノ者入院、陸地療養又ハ旅行等ノ爲騒

乱地域ヲ離レタルトキハ其ノ翌日ヨリ歸着ノ前日迄増給ノ支給ヲ停止ス

入院又ハ處罰等ノ爲本俸ノ全額ヲ受ケサルトキハ其ノ間前項ニ準ス

（別表一葉添）

1341

(送給名)

(増給支給期間)

利根

自九月十九日至十一月二十八日

至十一月二十六日

龍田

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

宇治

自九月十九日至十一月二十八日

至十一月二十七日

伏見

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

嵯峨

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

隅田

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

勢多

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

比良

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

鳥羽

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

保津

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

對馬

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

潮子

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

若菜

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

朝風

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

初雪

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

春風

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

櫻

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

梅

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

杉

自九月十九日至十一月二十五日

至十一月二十五日

達五百五十一號

海軍水雷學校規則中左ノ通改正メ

大正十三年十二月二十五日

海軍大臣財部

總

第二十六條第六號中「八箇月以内」ヲ「九箇月以内」ニ改ム

百五十一 海軍

1343

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百五十一號

海陸軍患者相互依託收療規則左ノ通定ム

大正十三年十二月二十六日 海軍大臣 財部 彰

海陸軍患者相互依託收療規則

第一章 通 則

第一條 大正十三年勅令第三百四十三號ニ依リ海軍各部ノ患者ヲ衛戍病院ニ、陸軍部隊ノ患者ヲ海軍病院及收療設備ヲ有スル陸上海軍各部(以下海軍病院及收療設備ヲ有スル)ニ依託收療スル場合ノ取扱ハ本則ノ定ムル所ニ依ル但シ本則ニ規定スル以外ノ事項ニ關シテハ海陸軍各其ノ關係諸條規ヲ準用スルモノトス

第二條 依託患者ノ收療ハ各其ノ固有患者ノ收療ニ支障ヲ及ボサナル範圍ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三條 依託收療ニ要スル諸費ハ一日分八拾五錢トシ隨時海陸軍相互間ニ於テ計算整理

百五十二

海軍

ヲ爲スモノトス但シ入院當日ハ一日分ノ額トシ退院當日ハ之ヲ算入セス

第二章 海軍各部ノ患者ヲ衛戍病院ニ依託收療ノ場合

第四條 依託ノ範圍ハ左ノ各號ノ一一該當スル者ニシテ最寄海軍收療部ニ收療スルコト能ハサル事情アル場合ニ限ル

一 海軍給與令ノ定ムル所ニ依リ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨ト爲スヘキ者
二 前號以外ノ現役軍人及軍屬ニシテ費用ヲ自辨スル者

第五條 依託患者身分變更等ニ因リ前條各號ニ該當セナルニ至ルモ症況上必要アルトキハ退院セシメ得ルニ至ル迄依託收療ヲ繼續スルヲ得

第六條 所轄長患者ヲ依託セムトスルトキハ軍醫科士官調製ノ病歷書ヲ添附スルヲ例トシ且患者身上ニ關スル通報先及家族居所ヲ通告スルモノトス

第七條 所轄長ハ依託中ノ患者轉轄シタルトキ又ハ身分變更等ニ因リ依託收療ヲ繼續シ得ナルニ至リタル者アルトキハ其ノ旨速ニ關係衛戍病院長ニ通報スルモノトス

第八條 依託患者重症若ハ危篤ニ陥リ又ハ死亡シタルトキハ衛戍病院長ハ其ノ旨患者ノ

所轄長及指定患者家族ニ急報スルモノトス

第九條 依託患者ニシテ將來軍務ニ堪へ難シト認ムルモノアルトキハ衛戍病院長ハ患者ヲ最寄海軍收療部ニ轉送スルモノトス但シ症況上轉送シ能ハサルトキハ病床日誌寫ヲ添ヘ其ノ旨患者ノ所轄長ニ通報スルモノトス

第十條 依託患者退院シタルトキハ衛戍病院長ハ病床日誌寫ヲ、死亡シタルトキハ病床日誌寫及死亡診斷書^{共ノ他ニ在リテヘニ通}ヲ患者ノ所轄長ニ送付スルモノトス

第十一條 依託患者制規ニ達ヒタル行爲アルトキハ所轄長ハ衛戍病院長ヨリ所要ノ通報ヲ受ケ患者退院後之ヲ處斷スルモノトス

第三章 陸軍部隊ノ患者ヲ海軍收療部ニ依託收療ノ場合

第十二條 依託ノ範囲ハ舞鶴立佐並保衛戌地部隊所屬ノ營内居住下士兵卒或官費治療ニ屬スル准士官以上、營外居住下士兵卒及軍属シ症況上最寄衛戍病院ニ送致シ得サル場合ニ限ルモノトス

前項ニ規定スル者ノ外陸軍部隊ノ軍人軍屬ニシテ演習、派遣、公務旅行中發病シ附近ス

百五十三

海軍

ニ衛戍病院ナク症況上特ニ必要アルトキハ之ヲ依託スルコトヲ得

第十三條 患者ヲ依託スルトキハ病床日誌ヲ添附スルヲ例トス但シ病床日誌ヲ作製シ能ハサル場合ハ患者護送者又ハ本人ヨリ患者ノ所屬部隊及留守擔當者ヲ通告スルモノトス

ス

第十四條 依託患者ハ該患者所屬部隊所在地衛戍病院^{都督所在地ニ衛戍病院ナキトキハ同一師管内最寄衛戍病院}ノ入院患者トシ患者ヲ依託シタルトキハ患者所屬部隊ヨリ依託年月日、所屬部隊名、官等級氏名、傷病等差竝病名ヲ速ニ關係衛戍病院ニ通報スルモノトス但シ第十二條第二項ノ場合ニ於テハ患者護送者又ハ本人ヨリ本條ノ手續ヲ爲スモノトス

第十五條 依託患者身分變更又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ入院諸費ノ支出區分ヲ異ニシ又ハ依託收療ノ資格ヲ失ヒタル場合ニ於テハ患者所屬部隊長ハ其ノ旨速ニ關係衛戍病院長及海軍收療部ノ長ニ通報スルモノトス

第十六條 依託患者身分變更等ニ因リ依託收療ヲ繼續シ能ハサルニ至リタル場合ニ於テモ症況上必要アルトキハ退院セシメ得ルニ至ル迄依託收療ヲ繼續スルモノトス

第十七條 依託患者重症若ハ危篤ニ陷リ又ハ死亡シタルトキハ海軍收療部ノ長ハ其ノ旨
患者所屬部隊、留守擔當者及關係衛戌病院長ニ急報スルモノトス

第十八條 依託患者ニシテ軍務ニ堪ヘ難シト認ムモノアルトキハ患者ヲ依託地所管ノ
衛戌病院ニ轉送スルヲ例トス但シ症況上轉送シ難キ場合ニ於テハ海軍收療部ノ長ノ通
報ニ基キ衛戌病院長ハ最寄部隊附軍醫正又ハ軍醫ニ依託シ當該海軍收療部ニ就キ診斷
書ヲ調製セシムルコトヲ得恩給取扱手續ニ依ノ恩給診斷書ノ調製ヲ要スル場合亦同シ

第十九條 依託患者退院シタルトキハ海軍收療部ノ長ハ患者日誌寫ヲ、死亡シタルトキ
ハ患者日誌寫及死亡診斷書<sup>公務傷病者ニ在リテハ三通、ヲ關係衛戌病院長ニ送付スルモノト
ス</sup>

第二十條 依託患者中制規ニ違ヒタル行爲アリタル者アルトキハ所屬部隊長ハ海軍收療
部ノ長ヨリ所要ノ通報ヲ受ケ患者退院後之ヲ處断スルモノトス

附 則

本則ハ大正十三年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

百五十四

海 軍